

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立 星林高等学校 学校長名：岩崎 博

めざす学校像 育てたい生徒像	「時・場・礼を大切にし、自ら学び・考え・行動できる」人材を育成し、地域からの期待に応え信頼される学校
-------------------	--

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 ICT環境をフル活用しながら、さらに質の高い文武両道を目指す 2 地域との連携を深めながら、礼節を重んじ豊かな心を育む生徒指導を実践する 3 地域中核校としての本校の使命を見据え、生徒実態に応じた教育課程の改善を更に進める
--	---

中期的な目標(SI)	1 品位・礼節を育み、落ち着いた学びができる学校 2 高い目標に向かって文武両道を実践できる学校 3 生徒たちが生き生きとし、豊かな心や未来を切り拓く力を育める学校
------------	--

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	HP上での公開を検討中
--------------------	-------------

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価(3月16日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	生徒たちは落ち着いた態度で学習に取り組み、部活動等の課外活動にも積極的に取り組んでいる。進路におけるより高い目標設定や、部活動等のさらなる活性化に取り組みたい。 ICTを活用した新たな授業についてのパイロット校として、組織的な授業改善を更に進める必要がある。	・学習意欲と学力を高める授業が実施できているか。 ・個々の生徒に応じた適切な進路指導ができていないか。 ・部活動のさらなる活性化が行われているか。 ・学年団がチームとして機能できているか。	・生徒が「考える」授業を実践するために、ICTを活用 ・学習習慣の定着と学力向上 ・適切な進路目標の設定と達成のためのガイダンスと支援 ・家庭学習時間の増減 ・定期考査、模試等結果分析 ・面談の充実・補習の充実 ・学校全体で部活動等の大切さを生徒に説き、活動実績の顕彰に努める ・外部人材等の活用 ・進路希望実現の実績 ・部活動等参加人数の増減と活動実績	・ICT活用・授業力向上委員会」を機能させ教科での組織的授業改善を可視化させながら進める ・家庭学習時間の増減 ・定期考査、模試等結果分析 ・面談の充実・補習の充実 ・外部人材等の活用 ・進路希望実現の実績 ・部活動等参加人数の増減と活動実績	B	○整備されたICT環境を活用するために設置した「ICT活用・授業力向上委員会」が中心となり、現職教育、授業動画作成、ICT活用の取り組みを組織的に進めた。 ○部活動加入率は85%で、コロナ禍の中で前年度並みを維持できた。 ○進路指導部と各学年の連携強化を図ることができた。	○令和4年度入学生からの本格的観点別評価実施について、組織的に研究と点検を進めながら実施していく必要がある。 ○3年間を見渡した更に体系的なキャリア教育の実施が必要である。 ○ICT教育や探究活動の教員研修が更に必要である。
2	きちんと挨拶ができる生徒が多く、集団としても秩序や礼節を保っている。「きのくにコミュニティスクール」も活用しながら、地域との連携をさらに進め、礼節をわきまえ豊かな心をもつ生徒を育てたい。	・星林生としての誇りを持ち、礼節や豊かな心を育む生徒指導ができていないか。 ・地域との連携やPRを通し、地域から信頼される特色ある学校づくりができていないか。 ・学年団がチームとして機能できているか。	・あらゆる教育活動で礼節や他への思いやりの大切さを説く ・地域との連携推進とボランティア等への積極的参加 ・国際理解教育の充実 ・新たに「星林グローバルサポーターズ」を立ち上げ、SDGsの活動を充実 ・学年団として、毅然とした生徒指導と個々の生徒に応じたきめ細やかな指導	・アセンブリ等の効果的活用 ・いじめ等の未然防止 ・新たに「地域支援交流班」を立ち上げ、ボランティア参加人数を増加させる ・ICTを活用した国際交流も含め、国際理解教育とSDGsの取組を本校の特色として充実&PRする ・生徒指導上必要な場合は関係分掌と連携しながら機動的に学年会で対応	B	○いじめアンケート等を有効に活用し、積極的ないじめの認知に努め、適切に対応できている。 ○コロナ禍の影響で、ボランティア活動は自粛せざるを得なかった。 ○オンライン国際交流等、工夫した国際交流活動を実施できた。 ○丁寧で粘り強い身だしなみ指導ができた。	○ボランティア活動等を更に充実させ、生徒の自己有用感を高めたい。 ○学校として一枚岩となった丁寧な生徒指導と、様々な課題を抱えた個に寄り添った指導との両立を更に目指す必要がある。 ○今後の本校の在り方に関わり、進路実現とともに「広義での探究活動」、「国際交流活動」、「落ち着いた校風」を守り強めていきたい。
3	和歌山市における過去2年間の中学3年生の生徒数が大幅に減少するなかで、本校入学生の学習指導や生徒指導において、今まで以上に丁寧できめ細かな指導が必要である。	・生徒実態に応じた教育課程の改善が図れたか。 ・地域中核校として10年先を見据えた本校の在り方をデザインできているか	・クラス編成の改善 ・授業展開の効率化 ・「国際理解教育」「外国語教育」「集中できて楽しい授業」「SDGsと探究活動」をキーワードとした魅力づくり ・国際交流科の在り方検討	・普通科における少人数クラス編成の実施 ・授業展開の効率化による不必要な授業展開の削減 ・左記4つのキーワードからなる「外からわかりやすい本校の魅力」づくりを行い、国際交流科の在り方を検討	B	○教育課程の効率化を徹底し、新入生の普通科30人学級及び普通科スタンダードクラスでの30人学級を実現できた。 ○新たに立ち上げた「探究部」が中心となり、SDGsを中心に据えた「総合的な探究の時間」をリデザインすることができた。	○生徒・保護者の願いや困り感を的確にすくい上げ、きめ細かく丁寧な教育活動の実施がますます重要となってきた。

学校関係者評価	
令和4年2月25日実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学校評価アンケート結果から、全項目において総じて高い評価をいただいている。特に、コロナ禍の中でも「生徒は明るく生き生きと学校生活を送っている」「学校行事・部活動や生徒会活動は充実している」「生活の規律や校則を守る態度を育てようとしている」等の項目では高い評価を得ている。また、ICT環境の活用が大幅に進んだことが一因であると思われるが、授業改善が進んでいることがアンケート結果から読み取れる。本校保護者の学校目標で重視してもらいたい優先順位1「授業の内容や指導方法の充実」、優先順位2「進学実績の向上」であることを考え、次年度での更なる改善を目指したい。</p>	